

PEACE
BOAT

ピースボート 第1回
「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」
報告書

2008.9.7 ~ 2009.1.13



ピースボート 第1回

「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」報告書

目次

- 03** **プロジェクトの総括**
核なき未来への船出
第1回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」をふりかえって
(ピースボート共同代表 川崎哲)
- 07** **プロジェクトの概要**
- 08** **寄港地での活動**
- 09** **船内での活動**
- 16** **成果**
平和市長会議新規加盟都市等一覧
- 18** **報道の数々**

プロジェクトの総括

核なき未来への船出

第1回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」をふりかえって

川崎哲（ピースボート共同代表 / 「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」プロジェクト・ディレクター）

歴史上初めてのヒバクシャ地球一周

ピースボートは、2008年9月7日から2009年1月13日まで、広島・長崎の被爆者103名とともに、船で地球を一周し各地で原爆の証言を行うというプロジェクト「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」を実施した。129日間かけて20カ国23寄港地を訪ねた。代表団が船を離脱して訪問した箇所も合わせれば、22カ国25都市になる。統計こそないが、100名を超える被爆者が証言をしながら地球をぐるり一周するというのは、歴史上初めてだったにちがいない。

103名の内訳は、被爆地では広島62に長崎41。現住所は日本各地のほか、在外の参加も多数あった。在韓被爆者4名のほか、戦後移住者がブラジル2名、メキシコ1名、カナダ1名、オーストラリア1名だ。最高齢が87才に対して、最若齢は胎内被爆者62才。年代で分けると、60代54名、70代39名、80代10名であり、被爆当時10才以下であった人（船旅参加時点で73才以下）が大多数であったことが特徴だ。

この103名が、「第63回ピースボート 地球一周の船旅」の一環として世界をめぐった。同船には一般参加者が約600名乗っており、その大多数は日本人で、若者もいれば同じ戦争体験世代も多数いた。

「今の物語」としてのヒロシマ・ナガサキ

このプロジェクトは、ピースボートが創立25周年を記念してとりくんだものだ。ピースボートは、1980年代の歴史教科書問題をきっかけにアジアの船旅として発足したが、「過去の戦争に学び、未来の平和をつくる」というのが当時の標語だ。東西冷戦が終わった90年代以降は、地球一周を中心に展開している。毎年千人以上が参加しているが、それは「地球人」の意識をはぐくむ絶好の場だ。私たちは、今の地球人たちが将来の平和を担うために欠かすことのできない教えの一つが、ヒバクシャの証言だと考えた。そして「やるならでっかくやろう」という気風のもとで、「100名のヒバクシャ地球一周」の構想が生まれた。

もう一つの背景として、ピースボートが中心に関わった「9条世界会議」（2008年5月）の成功があった。日本の憲法9条を現代の世界にいかそうという呼びかけのもと幕張メッセ等で行われた同会議には、42カ国から3万人以上が集まった。9条は、日本の人々にとっては古く手あかにまみれたものかもしれない。しかし、広島・長崎の惨禍を含む戦争の経験のうえに日本が手にした平和憲法に、世界の人々はいま熱く注目し、価値を見いだしている。その手応えが、大きな自信となった。

8年間にわたるアメリカのブッシュ政権のもとで、テロとの戦いという名の戦争が常態化し、世界の軍事費は増え続けた。核軍縮の目標は薄れ、北朝鮮やイランなど核拡散の波が起きている。しかし、核がほしいという国の指導者や人々は、「核兵器とは何なのか」をどれだけ理解しているというのか。10年前、核実験を実施したばかりのインドをピースボートで訪ねたとき、核保有を熱烈に支持する多くの市民に出会ったが、広島・長崎の現実を知る人はきわめて少なかった。

この航海のなかで、各地の人々は、興奮をもって被爆者たちを受け入れ、食い入るように話を聞き、核問題を我がこととして考えた。語り手の側にも、それに負けないくらい、みずみずしくほとばしるエネルギーがあった。広島・長崎の話が「古い話」だと思ったら大まちがいだ。それは、地球の将来へつながる「今を生きる物語」であるということ、この航海は明らかにした。

とはいえ現実には多くの問題を抱え、皆さんに迷惑をかけおしの船旅であった。何よりも、使用客船「クリッパー・パシフィック号」に整備不良が見つかり、複数の港での検査の後、航海半ばのギリシャにて船の交換を余儀なくされた。代替船「モナリザ号」に引越してからは順調だったとはいえ、3カ月半だった予定が4カ月以上となるという異例の船旅となったことは、お詫びのしようもない。こうしたなかでも協力してくださった参加者およびご家族の皆さんには、心より感謝を申し上げたい。

アジア・アフリカの戦争と貧困

各寄港地での活動概要は、8ページの表のとおりだ。これらの寄港地へはピースボートがこれまでも少なからず訪問しているから、それぞれに長い付き合いの現地パートナーがいる。そこにピースボート側のスタッフが事前に飛んで受け入れ準備にあたるわけだが、被爆者100名が来るとなると現地の「意気込みがいつもとまったくちがう」。スタッフが一様に感じた手応えだ。

船は横浜を出てから、ゆっくりと西へ向かう。最初はアジア、そしてアフリカだ。

ベトナムでは、枯れ葉剤被害者と交流した。枯れ葉剤にさらされた親からの影響で障害を負った彼らの多くは、30代以下の若者だ。かつて解放戦線の「アオザイの闘士」と呼ばれたグエン・ティ・ビン元副大統領が歓迎してくれた。彼女は式典で、危険な影響を後世に残す核兵器や化学兵器の廃絶を訴えた。枯れ葉剤被害者らはシンガポールまで乗船し、数日間生活をともにした。彼らの明るく前向きな姿勢をみて、これまで体験をあまり語ってこなかった自らを顧みたとする被爆者もいた。

インドでは、南部ケララ州コーチンを訪ねた。この地方は自国政府の核保有を批判し核廃絶を求めている。サリーを身にまとったウィアムズ市長は被爆者一行の前で、平和市長会議の「ヒロシマ・ナガサキ議定書」(注)に賛同署名した。高校生や、NGOに所属する女性や農民たちが各地からバスで集まり、英語と現地語の二重通訳で証言に熱心に聴き入った。ストリート・チルドレンを集めヒロシマをテーマにした演劇を練習している「ボーンフリー・アート・スクール」が、力強い舞台を披露してくれた。こうした交流の後の式典で、韓国から参加した郭貴勲さんは「多数の飢えや貧困を抱える貴国は、核開発などしている場合ではない」と訴えた。

エリトリアは、1993年に独立したアフリカの小国だ。エチオピアとの戦争の傷跡を今も抱えている。独立戦争のさなかの大空襲の記憶を鮮明に語る青年たちに、被爆者たちは原爆のパネルや被爆遺品を紹介し交流した。まさに戦後復興を担う青年たちに引率され市内を見学したさい、視界に入ったのはソマリア難民キャンプだった。

エジプトでは、イラク人ウード奏者(琵琶の原型と言われるアラブ伝統楽器)の道場を訪ねた。主宰のシャンマ氏は、80年代のフセイン政権による核開発に危機感を覚え、「ヒロシマ」をモチーフにした曲をつくり発表した。しかし投獄され、以後イラクを去った。あいにく本人には会えなかったが、弟子のイラク人少年らが奏でる調べを聴いた。

戦争と貧困は、アジア・アフリカでは現在進行形の問題である。船旅の前半でこのことを実感した被爆者たちは、自らの役割を考え始めた。



エリトリアの青年たちと語り合う

ヨーロッパ市民社会のパワー

船が地中海に入ると、ヨーロッパ各地ではNGO、市民社会の強さに触れた。核や平和問題はもちろん、環境、人権、歴史問題などに取り組んでいるNGOが多数あり、そのおかげで、学校での証言や市役所への訪問などをスムーズに計画し実行することができた。すでに「平和市長会議」に加盟している市も多かった。

船の点検のため予定より大幅に長く滞在したトルコでは、地元の社会運動グループと交流した。彼らの関心はNATO(北大西洋条約機構)の基地だったり原子力発電だったり、日本との共通性があった。トルコでは原発建設計画が大きな問題となっている。「日本の被爆者は、現在の原子力についてはどう考えているのか」「放射能の二世・三世への影響はどうなっているのか」といった質問が相次いだ。

ヨーロッパでは、とりわけギリシャとスペインでの出会いが印象的だった。ギリシャでナチス銃殺刑の「最後の生存者」デオドロスさんのお話を聞くことができた。被爆者のなかからは「我々もいつか最後の一人という人が出てくるんだろうな」「我々が語っていかねばならんな」といった感想が口をついた。

スペインのバルセロナは、カタルーニャ自治州の州都だ。その自治意識の高さゆえにカタルーニャを一つの「国」とみれば、被爆者一行はまさに「国賓」なみの歓迎を受けた。カタルーニャは1930年代のスペイン内戦でファシズム勢力に対抗して戦ったが、フランコ将軍に破れ75年まで独裁下におかれた。この時代の人権侵害に光をあてるため、州は近年、本格的な「歴史の記憶発掘」作業に乗り出し、州政府に「人権・平和局」が設置された。被爆者たちは州議会に呼ばれ、ベナチ議長をはじめ議員らと意見交換をした。それを踏まえて、州議会は後日「核兵器禁止を求める州議会決議」をあげ、スペインの中央政府に積極的な行動を求めたのである。

ナチス、スペイン内戦、そしてヒロシマ・ナガサキ。第二次大戦前後の数々の人権侵害に対して、地方レベルでそれぞれの取り組みがある。これらの力を重ね合わせれば、国際政治に風穴を開けることも可能だと実感した。

なお、船がヨーロッパに滞在している間、4名の代表团が空路ニューヨークへ飛び、国連総会に参加した。

総会第一委員会のNGO発言の一人として、カナダ在住のサーロー節子さんが演説し、各国に核兵器廃絶のための緊急の行動を求めた。ほかブラジルの森田隆さんから代表団は、潘国連事務総長も演説した東西研究所シンポジウムで発言したり、ニューヨークの2つの高校で証言するなど、精力的に活動した。

ちなみに、このとき国連で日本の樽井軍縮大使と懇談する機会があり、その席上「被爆者の証言を国際政治の場に届けることは重要だ。日豪政府がたちあげた核軍縮国際委員会（ICNNND）でも、被爆者の証言の場をつくろう」というアイデアが生まれた。これは、その4カ月後ワシントンにて実現した。



バルセロナ市長補佐からの挨拶

南半球から吹く風

船旅の後半、被爆者らはラテンアメリカの力強い変革の息吹と交わった。ベネズエラには4名の代表団が長期滞在し、政府機関、市庁舎、学校などで精力的に証言をした。文部大臣とも面会し、核廃絶教育について意見交換をした。テレビ・ラジオ・新聞各局にもひっぱりだこで、キャスターからは「日本の皆さんが原爆を忘れても、私たちが引き継いでいく」との発言まで飛び出た。

ベネズエラ全国250以上の市が加盟するボリバル市長連盟は、平和市長会議を全面的に応援する方針を確認し、その発表式典には1000人以上が集まった。みな固唾をのんで証言を聴いた。私はその会場でカラカスのベルナル市長と並び記者団にもみくちやにされ「被爆者や日本人たちは、オバマ新大統領をどうみているか」と質問された。彼らは、日本が核攻撃を受けながら戦後アメリカに追随しイラクにまで派兵した国であることをよく理解していて、それがオバマ新政権でどう変化するのかに、期待を交えた関心をもっていた。

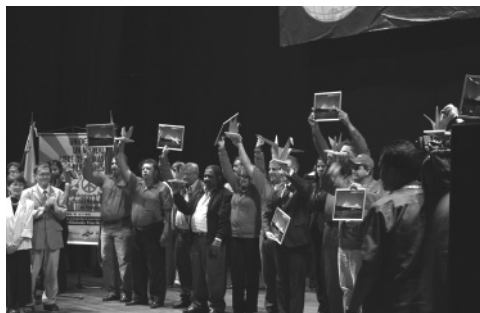
代表団は空路エクアドルを訪問、モレノ副大統領と面会した。エクアドルは、外国軍の撤退を定める平和憲法をもっている。憲法で軍隊をなくした国としてはコスタリカが有名だが、最近ではボリビアも平和憲法を採択している。1960年代に世界で初めて非核地帯となったラテンアメリカは、最近では南米諸国連合条約で、あらためて核廃絶をうたっている。副大統領とは、これらラテンアメリカの動きと日本の平和憲法をつなぐ市民会議を2009年に共催しようと意気投合した。（この会議は、2009年11月にエクアドルのマンタ・モンテクリスティにて実現した。）

太平洋に出た船は、タヒチ（仏領ポリネシア）でフランス核実験の被害者たちと交流した。1960年代からくり返し核実験が行われた地域だが、作業に従事した労働者や住民たちが自らの被害を調査し組織的に活動を始めてからまだ10年も経たない。彼らは日本の被爆者に、被爆証言の継承方法について助言を求めた。

ポリネシアからニュージーランド、オーストラリアへ向かう船旅は、先住民族が大国の核開発の犠牲者になってきたことを学ぶとともに、その先住民族たちがもつ平和への智恵を学ぶ旅でもあった。オーストラリアのラドラム上院議員が乗船し、同国のウラン採掘による先住民族への被害について多くを学んだ。

シドニーまで来ると、日本はもう間近だ。被爆者たちは、これまでの旅を振り返り、ラッド首相に手紙を書いた。首相の指導力で日豪の核軍縮国際委員会が立ち上がったことを歓迎し、核廃絶のための力強い提言をまとめてほしいとの期待を込め、首都キャンベラから派遣された委員会職員に手紙を渡した。

原爆の被害を語る船旅は同時に、日本の近現代を振り返る旅にもなった。ドミニカ共和国やペルーでは、日系移民と交流した。日系移民が経験した棄民化政策の苦しみは、戦争で人々を苦しめた日本近現代史のもう一つの側面だった。ドミニカの日系移民たちは、植樹した被爆アオギリを「心の糧」として育ててきたという。また、パプアニューギニアやパラオの戦争体験者との交流は、太平洋戦争における加害者としての日本の姿を映し出した。船旅の参加者のなかには日本の加害という問題に戸惑う姿もみられたが、現場を訪ねることによってしかえられない貴重な対話が生まれた。



ベネズエラでは全国市長会議が式典を開催

新たな船出へ

この地球一周は、各地で歓迎され、子どもから大臣まで多くの人々の前で証言し、無数に報道され、さまざまな戦争や核の被害者と連帯する旅であった。強い手応えを得た。感想をひとこと言うならば、「さあ、これからだ」ということだ。

実際この船旅は、これからの継承運動の担い手もつくりだした。そもそも100名は一般公募したので、参加したのは、これまで被爆者団体の活動に無縁だった人たちがほとんどだ。まったく証言をしてこなかったという人たちもいる。その多くは60代や70代前半、いわば「若いヒバクシャ」たちだった。被爆当時の記憶がおぼろげであったり、まったく覚えていないという人もいた。

そうした「若いヒバクシャたち」を、船内の若者たちが支えた。このプロジェクトを船内では「おりづるプロジェクト」という通称で呼んでいたのだが、一緒にプロジェクトを盛り上げようという若者らが「おりづるパートナー」として集まった。略して「おりぱ」。彼らは、若者たちに証言を聴いてもらう工夫を考えたり、寄港地で分かりやすく証言するための紙芝居を一緒につくったりした。被爆者とおりが互いに意見やセンスが合わずに悩む場面もあったが、とにかく試行錯誤で協働した。

船には、アメリカの軍縮教育家のキャスリン・サリバンさんや、イギリスの核軍縮運動（CND）元議長のカロル・ノートンさんといった腕のある運動家が合流し、若者たちと、この活動を進めていく楽しさや困難について語り合った。また、「9条世界会議」で公募した「9条アンバサダー」の日本人学生2名も乗船した。彼らは率先して、現代の日本や国際政治について考える船内企画をつくっていった。

これらの成果として、最終的には、太平洋上の船内の数百人が総出で一日がかりの「おりづる文化祭」を行った。被爆者との出会いのなかで考えたことを、音楽、ダンス、語りなど、思い思いの方法で表現した。ヒバクシャも非ヒバクシャも、「これから私にできること」を考え、語った。

正直なところ、このプロジェクトを始めるときには私自身「おそらく最初で最後だろう」と思っていた。しかし、決して計画したわけではない若い力の発露をみて、この船旅は継続しなければならないと確信した。今後も年一回を目標に継続していくことを決め、第2回「ヒバクシャ地球一周」を2009年8月に出航させた。世界中の高校生、大学生たちを巻き込んだプロジェクトにしていきたい。

たかが船旅というなかれ。広島・長崎両市の後援をえて実施したこのプロジェクトは、平和市長会議への新規加盟を4カ国27都市、「ヒロシマ・ナガサキ議定書」への新規賛同を5カ国25都市から獲得した。日本政府も、国連本部やいくつかの寄港地での行事を後援した。こうした積み重ねが、政府を動かし、国連や核不拡散条約（NPT）再検討会議、また日豪核委員会（ICNND）を動かす力につながっていく。

地球一周から帰った「若いヒバクシャ」のなかからは、日本国内の世論を高める全国キャラバンを展開しようという動きが自発的に生まれ、ヒロシマ・ナガサキ議定書を広げる「Yes!キャンペーン」の発展につながった。こうしたボトム・アップのうねりが国境をこえて連なり合ったとき、それは世界を変える力となる。

(注) 平和市長会議が提唱しているもので、核不拡散条約（NPT）に「2020年までの核兵器廃絶」を義務づける内容の付属文書（議定書）をつけるという構想。

プロジェクトの概要

●クルーズについて

クルーズ 第 63 回ピースボート「地球一周の船旅」
期 間 2008 年 9 月 7 日（日）横浜発着～2009 年 1 月 13 日（火）東京着 計 129 日間
使用客船 クリッパー・パシフィック号（～2008 年 11 月 5 日）
モナリザ号（2008 年 11 月 6 日～）
バハマ船籍 総トン数：28,891 トン 全長 201 メートル
旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス

●参加被爆者数

参加被爆者：103 名
内訳：広島被爆 62、長崎被爆 41
韓国：4、ブラジル：2、メキシコ：1、カナダ：1、オーストラリア：1
※年齢内訳：60 代 54、70 代 39、80 代 10（62～87 歳）

●プロジェクト通称 おりづるプロジェクト

●航海記録ブログ <http://ameblo.jp/hibakushaglobal/>

●主催・連絡先 ピースボート

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1
Tel 03(3363)7561 Fax 03(3363)7562 www.peaceboat.org

●後援

広島市／財団法人広島平和文化センター／長崎市／財団法人長崎平和推進協会
日本被団協／国際平和ビューロー（スイス）／核時代平和財団（アメリカ）ほか多数

●私も応援します

吉永小百合（女優）／井上ひさし（作家）／鎌田慧（ルポライター）／品川正治（経済同友会終身幹事）
／高樹沙耶（女優）／辻信一（ナマケモノ倶楽部）／土山秀夫（元長崎大学学長）／肥田舜太郎（広島被爆医師）／平岡敬（前広島市長）ほか多数

●プロジェクト趣旨文（出航時）

ピースボートは来る 9 月 7 日に横浜を出航する地球一周の船旅に、広島・長崎の被爆者約 100 名をご招待し、103 日間をかけて世界中で原爆について語っていただくというプロジェクト「ヒバクシャ地球一周証言の航海」を実施します。

広島・長崎への原爆投下から 63 年が経ちました。しかし、核兵器廃絶への展望はいつこうに見えてきません。核軍縮交渉は停滞し、核拡散の波が押し寄せています。世界的に紛争と暴力の連鎖が続き、新たな軍拡競争が始まろうとしています。「ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャ、ノーモア・ウォー」ヒバクシャの体験から発せられるこのような声は、今こそ世界に必要とされています。しかしヒバクシャの声は、まだまだ世界には届いていません。ヒバクシャが直接語ることのできる時間は限られています。

このプロジェクトは、世界の人々と被爆者の皆さんの直接の出会いをつくるものです。そのことで世界の人々が「核兵器とは何であるか」をあらためて考える場が生まれます。地球一周を通じたさまざまな証言や出会いを、私たちは記録に残し、日本および世界各地で生かしていただけるものにします。このような取り組みを通じて私たちは、核兵器を廃絶するための人々の行動の土台をつくりたいと考えています。

ピースボートは 1983 年以来、世界各地で、平和や人権、環境のために活動している NGO をはじめ、幅広い市民社会のネットワークを築いてきました。こうした世界の市民とヒバクシャの出会いが、核のない平和な未来をつくるための新たな命を生み出します。

2008 年 9 月 国際交流 NGO ピースボート

寄港地での活動

2008/9/7～2009/1/13

20カ国23寄港地を訪問（代表団を含めると22カ国25都市）

寄港地名 国名／寄港日	内容
ダナン ベトナム／2008/9/13	枯れ葉剤被害者リハビリセンター訪問。 グエン・ティ・ビン元副大統領による歓迎
コーチン インド／2008/9/29	市長主催の証言集会・式典。 ストリートチルドレンとのワークショップ交流
マッサワ エリトリア／2008/10/5	市長による船訪問。 エリトリア青年と証言・交流集会
ポートサイド エジプト／2008/10/11	カイロのウッドハウスでイラク人少年とアラブ音楽交流
イズミル トルコ／2008/10/16-17	トルコでNATO軍基地に反対するグループと交流。 近隣ディキリ市で市長と交流
ピレウス ギリシャ	市長訪問など
バレッタ マルタ／2008/11/8	地元平和・人権団体ピースラボラトリーと交流
パレルモ イタリア／2008/11/9	地元平和・環境・人権団体と交流、証言集会
バルセロナ スペイン／2008/11/11	カタルーニャ自治州議会議長訪問。 スペイン内戦の被害発掘・継承活動を学ぶ
ラスパルマス スペイン／2008/11/15	ヒロシマ・ナガサキ広場（憲法9条の碑）訪問。環境NGOとの交流
サントドミンゴ ドミニカ共和国／2008/11/23	被爆アオギリ2世を訪ね、地元日系協会と交流
ラグアイラ ベネズエラ／2008/11/25-26	カラカス市長・ボリバル市長連盟による歓迎式典。 高齢者・小学生らと交流会
カヤオ ペルー／2008/12/4	貧民自治区ビジャ・エルサルバドルで証言。リマでペルー日系協会との交流
イースター島 チリ／2008/12/11	島内小中学校で証言会
パペーテ タヒチ／2008/12/18	フランスによる核実験被害者の会（「ムルロアと私たち」）との交流
オークランド ニュージーランド／2008/12/25	先住民族マオリとの証言・交流会
シドニー オーストラリア／2008/12/29	日豪核委員会（ICNND）に要請。 先住民族ウラン採掘被害者らと交流会
ラバウル バブアニューギニア／2009/1/4	太平洋戦争被害者との証言・経験交流
コロール パラオ／2009/1/8	パラオ非核憲法を支持するNGO「キッタレン」と交流
代表団（船から一時離脱、陸に滞在し活動）の活動	
1 ギリシャ（2008/10/15-29） 市長訪問。学校での証言。ナチス銃殺刑生幸存者との交流	
2 ニューヨーク（2008/10/19-31） 国連総会第一委員会での発言。高校での証言	
3 ベネズエラ・エクアドル（2008/10/31-11/14） 政府、学校、市庁舎などを訪問、証言	

その他に訪問した寄港地：

シンガポール、サファガ（エジプト）、クサダシ（トルコ）、クリストバル（パナマ）

船内での活動

- ①証言、講座、ワークショップ、展示
- ②若者「おりづるパートナーズ」らとともに「おりづる文化祭」を開催
テーマソング「こどもたちのそら」(FUNKIST)
- ③多彩な水先案内人
ベトナム枯れ葉剤被害者、支援者グループ
キャロル・ノートン 英「CND (核軍縮運動)」元議長
ガブリエル・テティアラヒ タヒチ NGO「ヒティタウ」
キャスリン・サリバン 国連軍縮教育顧問

一覧

9月7日	横浜	記者会見	出航・記者会見
9月11日		講座 ワークショップ	ついに始動！羽ばたけ！おりづるプロジェクト おりづるヘキサゴン～もう羞恥心とは呼ばせない～第一夜
9月12日		ワークショップ	おりづるヘキサゴン～もう羞恥心とは呼ばせない～第二夜
9月13日	ダナン	ツアー 式典	枯葉剤被害者リハビリセンターの訪問、SAIGON TOURANE HOTEL にて相互の被害の紹介。 グエン・ティ・ビン元副大統領臨席。
9月14日		ツアー	日越外交関係 35 周年記念式典への出席。元副大統領臨席。 枯葉剤被害者との交流
9月16日		ミーティング ワークショップ ミーティング 証言 上映会 証言	おりづる新聞部「海鶴」ミーティング 折り鶴を折ろう！ おりづるプロジェクト〔ベトナム〕振り返り会 それぞれのヒロシマ アニメ「はだしのゲン」 ベトナムがのこしたもの
9月17日		ワークショップ	おりづるヘキサゴン～もう羞恥心とは呼ばせない～第三夜
9月18日		展示 証言 証言	「被爆関連資料」の展示 ヒバクシャと語ろう ヒバクシャと語ろう
9月19日	シンガポール		観光
9月21日		ワークショップ	おりづるヘキサゴン～もう羞恥心とは呼ばせない～特別授業
9月22日		証言 上映会	お話、聞かせてください～在韓ヒバクシャワークショップ～ マッシュルームクラブ上映会
9月23日		上映会	あの日の夏雲
9月24日		証言	ヒロシマの祈りと鎮魂の風景
9月25日		証言 証言	イラストパネルで体験紹介 ヒバクシャと語ろう
9月26日		講座 証言 証言 練習	世界は9条をえらび始めた～9条世界会議と63回クルーズの挑戦～ 「わたしのヒロシマ」 ヒバクシャと語ろう 「白い花」ワークショップ
9月27日		展示 証言 証言 講座 練習 練習	おりづる展示会 紙芝居で伝える原爆と人間 ヒバクシャと語ろう インドと核 長崎ぶらぶら節 「白い花」ワークショップ
9月28日		写真撮影 レッスン 証言 講座 証言 練習	おりづる全員集合！団体写真とります！ 英語でひろしま ヒバクシャと語ろう ヒロシマを語り続ける～北米で平和を語る日本の女性活動家～ 森田隆とカク・キフンが語る 「白い花」ワークショップ
9月29日	コーチン	記者会見 ツアー 式典	記者会見（ラマバルマ・クラブ） 「白い花」の上演、ストリートチルドレン、高校生、各種平和団体とのグループ交流 コーチン市長主催の式典。マーシー・ウィリアムス市長、K.K. ディネサン高等裁判所長官（ケーララ州）、ミニ・アントニー市事務局長。
9月30日		証言	なぜ原爆が投下されたのか？
10月1日		証言	ヒバクシャと語ろう

10月2日		ワークショップ	広島長崎むかし散歩
		講座	若い子集まれ！峠三吉詩集会
10月3日		講座	工芸アートでメッセージは伝わるの？
		証言	よっちゃん波瀾万丈～若者たちへの思い～
		レッスン	ヒロシマ・ナガサキを英語で語ろう～挨拶編～
10月4日		ワークショップ	カラオケレッスン楽しもう！
10月5日	マッサワ	展示 ツアー	おりづる展示会 エリトリアの青年を船内に招き、被爆資料の展示、班ごとのグループ交流 マッサワ市長を船内に招き、平和市長会議加盟署名、マッサワ大空襲の被害証言
10月6日		証言 講座	ヒバクシャの声・長崎 おりづる寄港地報告会～ダナン・コーチン・マッサワ編～
10月8日	サファガ		観光
10月9日		レッスン	ヒロシマ・ナガサキを英語で語ろう～物語編～
10月11日	ポートサイド	ツアー	ポートサイド交流ツアー
10月12日		交流	おりづるランチ
10月13日	クサダシ		観光
10月16日	イズミル	ツアー	ディキリ市のオスマン市長や市民と交流。市庁舎前でのパネル展示、パルメ広場での証言、市長と昼食。
10月17日		ツアー ツアー ツアー	トルコ国内の平和団体を束ねる BAK のイズミル支部メンバーへの被爆証言、交流。 トルコ国内の NATO 軍基地に反対するグループへの被爆証言、交流。 (ピレウス代表団) ピレウス市役所、日本ギリシャ協会、タブロス第5小学校、ピレウス第10高校
10月19日		ワークショップ	折り鶴をおろう
10月20日		9条 交流 交流 ワークショップ 交流	もしも日本に9条がなかったら？ おりづるランチ おりづる公園 ヒロシマ・ナガサキを英語で語ろう～折り鶴編～ おりづるディナー
10月21日			
10月22日		交流	おりづる公園
10月23日			
10月24日			
10月25日		しゃべり場 講座 講座 講座	しゃべり場～なぜ戦争はいけないのか？～ 僕たちが見たトルコ～スライドショー～ 原爆投下の真実に迫る サンホさんに聞こう！
10月26日		ワークショップ 9条	被爆2世、3世の集まり 9条ってなんなのさ？
10月27日		ワークショップ	あやにあやとり
10月29日	ピレウス		観光
10月31日		上映会	「戦争映画」を観て語り合おう
11月1日		ワークショップ 上映会 交流	ヒバクシャと語ろう 「戦争映画」を観て語り合おう 広島ディナー
11月8日	バレッタ	ツアー	北アフリカからの難民の生活を支援する人権団体ピース・ラボラトリー（修道院、ミントフ神父）での証言。
11月9日	パレルモ	ツアー	地元の平和・人権・環境団体と交流、被爆証言。パレルモ市議リタ・ボルセリーノ（反マフィア運動）、ISDE（医師による環境保護）エルネスト・ブルッジョ副会長、シルバーノ・リッジョ教授（パレルモ大学生態学部）、アルベルト・エラシベッタ（アムネスティ・インターナショナル）、CEP.E.S.（反核団体）ニコラ・チベッタ会長。
11月10日		講座 ミーティング ワークショップ	おりづる寄港地報告会～トルコ・ギリシア編～ おりバ図書館ミーティング パパさんに聞こう！
11月11日	バルセロナ	記者会見 ツアー ツアー	船内記者会見 バルセロナ市内のスペイン内戦戦跡訪問、バルセロナ市庁舎で被爆証言、マルティ市長補佐がヒロシマ・ナガサキ議定書への賛同署名を約束。 平和文化センターにて地元の高中生への被爆証言、スペイン内戦中のイタリア空軍による空爆跡や防空壕を見学。

		レセプション	船内レセプション：カタルーニャ自治州政府関係者を船内に招き、被爆証言、原爆資料展示。カタルーニャ自治州議会議長、グラノイエ市長。
11月13日		ワークショップ	第九で9条をうたいましょう
11月14日		ワークショップ ワークショップ ミーティング ミーティング 講座 ミーティング ワークショップ 講座	パパさんに聞こう② 今後のおりづる企画について☆ 佐藤広枝企画ミ ラスパルマスで9条発見!! おりバ図書部ミーティング パパさんに聞こう!③ イギリスの核にまつわるエトセトラ
11月15日	ラスパルマス	ツアー ツアー ツアー	ラスパルマス歓迎式典：ピースポート前で、ラスパルマス市長の歓迎、平和市長会議加盟の約束。 テルデ証言・交流ツアー：テルデ市内のヒロシマ・ナガサキ広場にある9条の碑を訪問、第九で9条を合唱。博物館にて環境団体トゥルコンへの被爆証言、交流。ホアン・アレマンさん。 インヘニオ証言・交流ツアー：テルデ市内のヒロシマ・ナガサキ広場にある9条の碑を訪問、第九で9条を合唱。インヘニオ市庁舎にて被爆証言、市長によるヒロシマ・ナガサキ議定書への賛同署名。
11月17日		ミーティング 講座 しゃべり場	おりづる文化祭参加者集まれ! ベネズエラにヒバクシャが行ってきた!～おりづる寄港地報告会～ おりづるしゃべり場
11月18日		ミーティング 講座 展示 練習	佐藤ひろ姉企画ミ オバマ新政権後の核のない世界? おりづる展示会 9条ダンスしませんか?
11月19日		ミーティング リハーサル ミーティング リハーサル 交流 朗読会 練習	9条パートナー大募集! 詩朗読会リハーサル サダコチーム集まれ 詩朗読会リハーサル 広島県立第一高等女学校卒業生の方集まりませんか 吉永小百合編詩朗読会 9条ダンスしませんか?
11月20日		ワークショップ 講座 ミーティング 準備会 講座 講座 講座	ヒロねえに聞こう。 権力とプライド～国家のアイデンティティと核兵器～ おりづる全体会議 おりづるプロジェクトいろいろ準備会 若いヒバクシャの想い 国連でヒバクシャが訴えた!～ニューヨーク報告会～ ざっくり太平洋戦争
11月21日	運動会		
11月22日		準備会 講座 9条 準備会 9条 練習 練習 交流 講座	おりづるプロジェクトいろいろ準備会 9.11 テロと35回クルーズ 第2回9条パートナー大募集! ピースカラーセッション企画関係者集まれ! コスタリカの平和憲法に学ぶ ピースオブヒロシマ(ヒロネエ企画ソング)を歌おう 9条ダンスしませんか? おりづる文化祭交流会 がつつりマンハッタン計画
11月23日	サントドミンゴ	ツアー	サントドミンゴ証言・交流ツアー：ミラドル・ノルテ公園にて広島の被爆アオギリの子孫を訪問、ドミニカ日系人協会の方と交流。ホテルにて歌手のアリシア・バローズさんの広島長崎の歌やアオギリの歌を聞く。嶽釜ドミニカ日系人協会会長。
11月24日		講座 講座 ワークショップ 講座	平和塾 石内の四季 ヒロねえに聞こう。 活動家であり親である
11月25日	ラグアイラ	ツアー	ラグアイラ証言・交流ツアー：港湾局文化センターにてラグアイラお年寄りクラブへの被爆証言、原爆資料展示、交流。

11月26日		記者会見 交流 式典 ツアー ツアー	船内記者会見：地元メディア向けの記者会見、ピースボートからベネズエラ政府、ラグアイラ市、カラカス市への感謝状贈呈。 ユース・オーケストラ・システム・ラグアイラの子供たちを船内に招いて、紙芝居で被爆証言、一緒に創作活動を行う。 港近くの野外会場で、ユース・オーケストラ・システムの合唱、子供たちと折り鶴と花束の交換、ラグアイラ・バルガス市長の宣言、和太鼓、三線、南中ソーラン、祭りダンス、ラテン音楽などが披露。ラグアイラ・バルガス市のアレクシス・トレド市長。 カラカス・リベルタドル市のベルナル市長の呼びかけで平和市長会議に賛同したベネズエラの市長たちが加盟署名を行う平和式典&コンサート「核のない世界へ」（カラカス市立劇場）の出席、被爆証言、ポリーバル主義市長連盟加盟の13都市の市長による平和市長会議加盟署名、カラカス市から被爆者一行に名誉訪問者表彰、ピースボートと平和市長会議にカラカス市からファン・シスコ・デ・レオン勲章授与。 カラカス UNESCO 協会：地元の学生への被爆証言、質疑応答。ルイス事務局長。
11月27日		ミーティング 上映会	9P ミーティング 誰が為に鐘は鳴る
11月28日		証言 講座 上映会 上映会 ミーティング 講座	負けてたまるか 男・森田の戦い ～核×エコシリーズ第1弾～核と原子力 ～核×エコシリーズ第2弾～ヒバクシャとは？ ～核×エコシリーズ第3弾～劣化ウラン弾ってなに？ おりづる文化祭集まれ ピースカラーセッション
11月29日	クリストバル		観光
12月1日		ミーティング 準備会 講座 9条 練習 練習 講座 準備会 練習 講座 練習 練習 交流 講座 講座 準備会 ミーティング 講座 ミーティング 講座 練習 練習 講座	9P ミーティング おりづるプロジェクトいろいろ準備会 今、高校生が熱い！ 9条って必要ですか？ 9条ダンスしませんか？ ファンキストの「こどもたちのそら」を歌おう 住めば都～メキシコ人生40年～ おりづるプロジェクトいろいろ準備会 サダコチーム集まれ なぜ山下やすあきというメキシコ人がいて、グティエレス一郎という日本人がいないのか ファンキストを歌おう 9条ダンスしませんか？ 長崎出身の方々集まりましょう 平和憲法を世界へ～日本とコスタリカ～ 中南米に生きる おりづるプロジェクトいろいろ準備会 おりづる文化祭アート・展示部集まろう ～核×エコシリーズ第4弾～核燃料サイクルと六ヶ所村再処理工場 文化祭企画部集合！！ コスタリカから発信！～軍隊のない国から核廃絶を語る～ 9条ダンスしませんか？ おりづる文化祭で歌を歌おう 被爆2,3世の現状と展望
12月2日		準備会 練習 講座 練習 練習 交流 講座 講座 準備会 ミーティング 講座 ミーティング 講座 練習 練習 講座	9P ミーティング おりづるプロジェクトいろいろ準備会 今、高校生が熱い！ 9条って必要ですか？ 9条ダンスしませんか？ ファンキストの「こどもたちのそら」を歌おう 住めば都～メキシコ人生40年～ おりづるプロジェクトいろいろ準備会 サダコチーム集まれ なぜ山下やすあきというメキシコ人がいて、グティエレス一郎という日本人がいないのか ファンキストを歌おう 9条ダンスしませんか？ 長崎出身の方々集まりましょう 平和憲法を世界へ～日本とコスタリカ～ 中南米に生きる おりづるプロジェクトいろいろ準備会 おりづる文化祭アート・展示部集まろう ～核×エコシリーズ第4弾～核燃料サイクルと六ヶ所村再処理工場 文化祭企画部集合！！ コスタリカから発信！～軍隊のない国から核廃絶を語る～ 9条ダンスしませんか？ おりづる文化祭で歌を歌おう 被爆2,3世の現状と展望
12月3日		準備会 練習 講座 練習 練習 交流 講座 講座 準備会 ミーティング 講座 ミーティング 講座 練習 練習 講座	9P ミーティング おりづるプロジェクトいろいろ準備会 今、高校生が熱い！ 9条って必要ですか？ 9条ダンスしませんか？ ファンキストの「こどもたちのそら」を歌おう 住めば都～メキシコ人生40年～ おりづるプロジェクトいろいろ準備会 サダコチーム集まれ なぜ山下やすあきというメキシコ人がいて、グティエレス一郎という日本人がいないのか ファンキストを歌おう 9条ダンスしませんか？ 長崎出身の方々集まりましょう 平和憲法を世界へ～日本とコスタリカ～ 中南米に生きる おりづるプロジェクトいろいろ準備会 おりづる文化祭アート・展示部集まろう ～核×エコシリーズ第4弾～核燃料サイクルと六ヶ所村再処理工場 文化祭企画部集合！！ コスタリカから発信！～軍隊のない国から核廃絶を語る～ 9条ダンスしませんか？ おりづる文化祭で歌を歌おう 被爆2,3世の現状と展望
12月4日	カヤオ	ツアー 式典	ビジャ・エルサルバドルで、被爆証言。カリント副市長によるヒロシマ・ナガサキ議定書賛同署名。 リマ市内のペルー日系協会、日秘文化会館、神内センターなどを見学、被爆証言、ペルーの日系人と夕食。目賀田周一郎・在ペルー大使臨席。ツネシゲ日系協会会長。
12月7日		文化祭 講座 練習 練習 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 ワークショップ	文化祭映像チームミーティング ～核×エコシリーズ第六弾～六ヶ所村のいま ファンキストでおどろう おりづる文化祭で歌をうたおう 情熱の書～テーマ・平和～ おりづる文化祭アート部 ファンキストの歌をうたおう♪ 9条ダンスしませんか？ おりづる文化祭アート展示部準備しよう！ 「9条を輸出せよ」読書会

12月8日		文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 講座 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 講座	おりづる文化祭準備会 サダコ練 文化祭映像チームミーティング 船上ウォーターボーイズ おりづるプロジェクトいろいろ準備会 文化祭で歌を歌おう！ 白い花やりませんか？ 平和塾 文化祭若者報告会 ファンキストでおどろう♪ 9条ダンスしませんか？ サダコチーム集まれ ファンキストの歌をうたおう おりづる文化祭アート・展示部準備 平和憲法と沖縄
12月9日		ワークショップ 文化祭準備 文化祭準備 写真撮影 文化祭準備 講座 ワークショップ 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 交流	9条ジャツ9しましょう 船上ウォーターボーイズ 折り鶴をおろう！ 9条Tシャツ集合！ 情熱の書 ～核×エコシリーズ第七弾～汚染されたピーターラビットのふるさと 「核×エコ」についてもっと聞きたい人集まれ！ 文化祭で歌をうたおう おりづる文化祭準備会 ファンキストと踊ろう♪ 9条ダンスしませんか？ おりづる文化祭のみ会！ 9P パーティー
12月10日		文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 講座 文化祭準備	サダコチーム集まれ お遊び歌謡広場 折り鶴をおろう！ 船上ウォーターボーイズ 文化祭で歌をうたおう♪ダンスしよう！ おりづる文化祭準備会 9条ダンスしませんか？ ～核×エコシリーズ・最終回～核と私たちの未来 ファンキストとおどろう
12月11日	イースター島	ツアー	ハンガロア村のロレンソ・バエサ・ベガ小学校でイースター島民への被爆証言、質疑応答。ジャケリン・ラブ校長。
12月13日		文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 講座 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 レッスン 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 証言 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備 文化祭準備	お遊び歌謡広場 船上ウォーターボーイズ 折り鶴を折ろう 文化祭で歌をうたおう♪ダンスしよう！① 来年こそはカーブ！ おりづる歌ステージ打合せ 文化祭で歌をうたおう♪② おりづる文化祭書道部 おりづる文化祭準備会 サダコチーム集まれ！ ファンキストでおどろう♪ 9条ダンスしませんか？ 英語でおりづる 折り鶴をおろう！ 船上ウォーターボーイズ 文化祭で歌を歌おう♪ダンスしよう！ 文化祭で歌をうたおう♪ フーモギの一人旅 サダコチーム集まれ！ ファンキストをおどろう 9条一緒におどりませんか？ おりづる文化祭準備会
12月14日			

12月15日	文化祭	ライブ 文化祭 文化祭準備 文化祭 文化祭 文化祭 文化祭 文化祭 文化祭 講座 文化祭 文化祭 文化祭 9条 文化祭 文化祭 映画上映 文化祭 ワークショップ	おりづる文化祭前夜祭 おりづる文化祭紹介コーナー ファンキストをおどろう自主練 開会式 展示 ヒバクシャが語る憲法9条 被爆証言 原爆詩とライブアート おりづる人生相談・占い・あやとりで遊ぼう ガビさんワークショップ「核のない世界を目指してツルとタコについて行こう」 ご長寿クイズ～方言バトルバージョン～ 千羽鶴～サダコの祈り～ おりづるシネマ 9間（くうかん） Peace Jam 「若者から発信！～今、わたしたちにできること報告会～」 有名怪獣映画から観る核の脅威 閉会式
12月16日		ワークショップ レッスン 講座 講座	絵本好き集まれ！ おりづる English あなたにできること～節子サーローのチャレンジ～ 若いヒバクシャの想い2『ヒバクシャであること』への抵抗感
12月17日		講座 証言	愛ラブ爆笑クリニック フーモギの一人旅
12月18日	パペーテ	ツアー ツアー	港近くの核兵器・各実験の犠牲者の慰霊碑に折り鶴を奉納、MeT（ムルロア・エ・タトゥ：ムルロアと私たち）の事務所では被爆緒言、核実験場の元労働者と核実験の被爆体験を継承する方法の議論、質疑応答。ロラン MeT 代表。 船内に MeT のメンバーを招いて、核実験被害者の証言記録について議論。ロラン MeT 代表、ジョン MeT コーディネータ、ブルーノ（フランス人ジャーナリスト）
12月20日		レッスン ワークショップ クイズ 映画上映	おりづる English 耳から軍縮を考えよう！ 太平洋横断おりづるウルトラクイズ 戦争映画を見たい！
12月21日		ワークショップ 講座 講座	絵本を読む（第3回） グレート・ターニング～時代の大変革に立ち会って～ 広島歴史～平和の街じゃねえ！～
12月23日		講座 ミーティング ワークショップ ワークショップ	森本順子さんのビデオを観よう！ 9P ミーティング まだ話し足りない！9条のこと。 広島・長崎の遺物
12月25日	オークランド	ツアー	マオリ族の村を訪ね、伝統文化を紹介してもらい交流、被爆証言。
12月26日		映画上映 講座 映画上映 ミーティング 講座 上映会	名画劇場 対話からはじまる平和～おりづる寄港地報告会～ 最後の核兵器 おりづる全体会議 想像してごらん、核のない世界を サダコをもう一度
12月27日		講座	スコット・ラドラム上院議員が語る『オーストラリアの核』
12月28日		証言 講座 ワークショップ ワークショップ	ドキュメンタリー「夏雲―逝きしものへのレクイエム―」 核のない未来へ 私たちにできること 折り鶴をつなげよう 私たちに何ができる？
12月29日	シドニー	記者会見 ツアー レセプション	記者会見：ターミナル内で地元メディア向けに記者会見、ラッド首相への手紙の朗読。 モリ・ギャラリーで地元の人に被爆証言、グループに分かれて質疑応答、意見交換。地球の友シドニー、オーストラリア緑の党、シドニー大学平和・紛争学センター。 船内レセプション：船内に豪の平和活動家、政治家などを招きレセプション、「長崎の鐘」合唱。
12月31日		ミーティング 上映会 上映会 上映会	9P ミーティング 原発予定地山口県上関の今 9条世界会議 DVD を見よう 私たちの電気がアボリジニの大地を壊す！？

1月1日 1月3日		練習 講座 講座	9条の歌を手話で 南洋開拓の理想に燃えて☆ むかし、この海で戦争があった。
1月4日	ラバウル	ツアー	ラバウル・ホテルで地元の人への被爆証言。南方戦線被害者の証言。大発洞窟、山本五十六 地下司令部、日本政府建立慰霊碑、戦争博物館、零戦・陸攻の残骸の見学。
1月5日		練習 ミーティング	9条の歌を手話で 9P ミーティング
1月6日	収穫祭	講座 講座 講座 練習 ミーティング 講座	少年特攻兵たち（震洋隊） ヒバクシャ地球一周 証言の航海 原爆症認定訴訟って？ ファンキストダンス初級編 9P ミーティング 独立なくして反核なし
1月8日	コロール	ツアー 練習	ミュンズ村でパラオの非核憲法を支持する反核団体「キッタレン」の元メンバーへの被爆 証言、交流。 9条ダンス
1月9日	9条	練習 講座 練習 ワークショップ 練習 講座 上映会 上映会 ミーティング 講座 講座 講座	9条の歌を手話で 9条を生かす「平和基本法」をつくろう！ ファンキストD練① 広島・長崎行きたい人集まれ ファンキストの歌うたった人集れ We Love 9～2009年にしたい9のこと～ エリカ監督の映画を観よう！ 原子力エネルギーと別れ豊かに暮らすには？ おりづる全体会議 劣化ウラン弾 オーストラリアからみたラバウル NPO・NGOに興味がある人大集合
1月10日			
1月11日			
1月13日	晴海	記者会見	記者会見

成果

●主な成果

①いま世界でヒバクシャが語ることの意義を痛感

20カ国で計2,000人以上の前で証言
強い手応え。報道も多数。
世界のさまざまな戦争や核の被害者との連帯
高まる核軍縮への関心

②これからの継承運動の担い手をつくった

証言していなかった人たちが語り始めた
「若いヒバクシャ」の活動
若者たちとの協働が生まれた
船内700人の参加者との交流

③平和市長会議との連携（右ページ参照）

平和市長会議新規加盟
4カ国（エリトリア、トルコ、スペイン、ベネズエラ）27都市
ヒロシマ・ナガサキ議定書への新規賛同
5カ国（インド、ギリシャ、ペルー、スペイン、ベネズエラ）25都市

④政府・国際機関との協力

オーストラリア、スペイン・カタルーニャ自治州、ベネズエラ、エクアドル
日本政府（ニューヨーク、ペルー、シドニーで大使や領事が出席）
日豪核軍縮国際委員会
成果報告：田上長崎市長（2009年1月27日）、秋葉広島市長（2009年1月28日）

●成果の普及

①ドキュメンタリー映画（日本語、英語（西語）各1本）

全国で報告会・上映会 100カ所を目標

③核不拡散条約（NPT）会議、日豪核軍縮国際委員会（ICNND）などに提言

2009.2 ICNND ワシントン会合での被爆者の証言（サーロー節子ほか）
2009.5 NPT 準備委員会（ニューヨーク）
2010.5 NPT 再検討会議（ニューヨーク）

第 63 回ピースボート「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」 平和市長会議およびヒロシマ・ナガサキ議定書署名市一覧

2009.1.23 現在

No.	国	市	平和市長会議	広島・長崎議定書
1	エリトリア	マッサワ	●	
2	ギリシャ	ピレウス	○	●
3	インド	コーチン	○※3	●※2
4	ペルー	ビジャ・エルサルバドル	○	●※1
5	スペイン	バルセロナ	○	●※1
6	(カナリア諸島)	インヘニオ	●	●
7		テルデ	○※3	●
8		ラスパルマス	●※1	●※2
9	トルコ	ディキリ	●	
10	ベネズエラ	リベルタドール (カラカス)	○※3	●※1
11		アセベド (ミランダ州)	●	●
12		バジェ・グアナベ / カルパバル	●	●
13		リベルタドール (カラボボ州)	●	●
14		アグア・デ・バルセロナ (アンソアテギ)	●	●
15		グイグエ / カルロス・アレバロ	●	●
16		サン・ホセ・デ・グアリベ (グアリコ州)	●	●
17		ベフマ	●	
18		マックグレゴル	●	
19		マウロア (ファルコン州)	●	●
20		ブアクア (アンソアテギ州)	●	●
21		ラファエル・ランヘル (トゥルヒージョ州)	●	●
22		エロルサ / ロムロ・ガジェーゴス	●	●
23		モタタン (トゥルヒージョ州)	●	●
24		ウルダネータ (トゥルヒージョ州)	●	●
25		バレラ (トゥルヒージョ州)	●	
26		カンボ・エリアス (メリダ州)	●	●
27		ポリーバル (トゥルヒージョ州)	●	
28		バンパン (トゥルヒージョ州)	●	
29		ポコボ (トゥルヒージョ州)	●	●
30		スクレ (トゥルヒージョ州)	●	●
31		カンデラリア (トゥルヒージョ州)	●	●
32		エステジャール	●	
33		バルガス (バルガス州)	●	●
他		ポリーバル主義市長連盟	ポリーバル市長連盟に加盟する 250 余市が平和市長会議に加盟し、ヒロシマ・ナガサキ議定書に賛同していくことを生命で表明。加盟・賛同書は、2009 年 6 月をめどに回収。	

●：新規署名 ○：以前から署名済み

※1：用紙取り寄せ中

※2：平和市長会議事務局に用紙を送付済み

※3：ピースボートの過去寄港時に獲得

4 カ国 27 都市、平和視聴会議に新規加盟

5 カ国 25 都市、ヒロシマ・ナガサキ議定書に新規賛同

102の被爆証言 世界へ



客船きょう出航

広島、長崎の被爆者102人を乗せた客船が7日、横浜港から世界一周の旅に出る。20カ国22カ所の寄港先や船内で、原爆や平和について語る試みだ。
(秋山千佳)

Ⅱ2面に「ひと」

「使命」の旅 20カ国に

市民団体「ピースボート」が一般客約600人とともに乗る100人の被爆者を募ったところ、7月の募



出港を翌日に控え、準備作業をするピースボートのメンバーⅡ6日午後、横浜市中区、徳山喜雄撮影

性55人、女性47人の被爆者が乗り組むことになった。最年長の藤原富子さん(87)Ⅱ島根県美郷町Ⅱは同じ被爆者のめい(77)に誘われて参加を決めた。24歳の時、広島の爆心地から0・9キロの路面電車内で被爆。後頭部に刺さった窓ガラス片が今も残る。数年前まで旅館を経営し、自由に旅行出来なかった。「つえをついてなら1人で歩けるし、原爆の恐ろしさを伝えたい」と話す。

て腎臓やのどに異常が見つかり、被爆した事実をより強く意識するようになった。「他の被爆者の話を聞き、勉強したい。証言していくのが僕らの使命」と決意する。この旅で初めて他人に被爆体験を語る人も多い。ピースボートのアンケートでは、回答した77人の参加被爆者のうち、今まで被爆証言をしたことが「ない」は43人で、「ある」の34人を上回った。

最年少の竹内貴美子さん(62)Ⅱ広島市佐伯区Ⅱは胎内被爆者。母に連れられ、8月6日の平和記念式には第1回から参加してきた。原爆で姉を失った母が慰霊碑にしがみついていた姿が忘れられない。母のことが広島の復興の様子を語ろうと考えている。19年前から、留学生を自宅にホームステイさせている。約50人を受け入れた。「知り合った人が広島に来てくれるなら受け入れたい」と語る。爆心地から約3キロの自宅で被爆した磯博夫さん(67)Ⅱ広島県福山市Ⅱは、60歳を過ぎ

戦争時に米軍最大の基地があったダナン(ベトナム)では枯れ葉剤被害者と、パペーテ(タヒチ)では核実験の被害者らと交流する。ポートサイド(エジプト)ではイラク難民から交流を望む声が届いているという。シドニー(豪)では核兵器廃絶に積極的なケビン・ラッド首相の表敬訪問も調整中だ。ピースボート共同代表の川崎哲さん(39)は「100人も被爆者が世界各地で直接市民に語る機会は多分最初で最後。核廃絶運動として大きな成果を収めたい」と話す。

広島の被爆者が国連演説



国連軍縮・安全保障委員会で外交官や平和団体に核廃絶を訴える被爆者たち (川崎哲さん撮影)



来米した被爆者を歓迎するNYの広島県人会とばつてん会の皆さん

長崎の被爆者、中村キクヨさん(84)と吉田勲さん(68)の計4人がニューヨークを訪れ、核廃絶への思いを10月27日、国連本部で語った。

23日にはニューヨークの広島県人会とばつてん会が共催して歓迎会を市内レストランで開き、被爆者3人が参加した。中村さんは「長崎の三菱造船所で働いている時に被爆した。被爆の悲惨さを伝え、核のない世界になるよう訴えたい」と話した。森田さんは爆心地から1・3キロで被爆、奇跡的に助かった。戦後11年目にブラジルに移住、現地で被爆者協会を作り、救済活動が続けた。4歳の時に被爆した吉田さんは48年経つてようやく人に語れるようになった。

長崎に原爆を落とした爆撃機を5月にオハイオ州 Dayton の航空博物館で見体震えたという。3人はNYの同郷の仲間達と終始歓談していた。

ピースボートの4人平和訴える

平和団体「ピースボート」が企画した「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」(被爆者102人が乗船)に参加した、広島市の被爆者、節子サローさん(76)とカナダ在住の森田隆さん(84)とブラジル在住、

被爆を証言 決意の船旅

「地球一周」航海「若者に伝えたい」

東区の七宝作家田中さん

船旅の日程表を前に、海外での証言への決意を語る田中さん(広島市東区の自)



広島市東区牛田東の被爆者で七宝作家の田中稔子さん(69)が、非政府組織(NGO)のピースボート(東京)が被爆者百三人を招く「地球一周」の船旅に七日から参加する。寄港地ごとに被爆体験を語るプロジェクト。これまで体験を積極的に語ることはなかったが、「世界の若い人たちに伝えたい」と証言に加わる決意をした。

日展会友で、七宝工芸の指導者として活躍する田中さんは六歳の時、牛田の自宅が被爆。首や右腕にやけどを負った。これまでも七宝の伝統を生かした数々の大型の壁画作品に、平和への祈りを込めてきた。ただ、「どうせ分かってもらえない」と被爆体験は語る気になれなかった。

核保有国や戦争被害地を回る百日間余りの旅に被爆者を招待すると聞き、参加を決めた。海外での証言に使った料を出発地の横浜に送った。原爆で長男一家を失った祖母が焼け野原で家族を捜した際、肩に掛けていた布のかばん。一家の罹災証明…。

作品の写真は持参するが船旅では新作作りは控え、証言や交流に徹する。「これは前向きに体験を語り継いでいきたい」という。(岩崎誠)

世界一周の被爆証言の旅に出る在ブラジル被爆者

ひと

もりた たかし
森田 隆さん(84)



52年前、ブラジルへ向かう移民船の旅は42日間。今回は倍以上の103日間。7日、「ピースボート」の招待で20カ国を巡る旅に出る。「原爆の恐ろしさを各地で伝える最後の機会と思うんです」。あの瞬間から人生をよく響く声で語ってくる。

憲兵隊員だった。故郷の広島へ転属した5日後に被爆、熱線に首筋を焼かれた。10年後、白血球が急増して震えが止まらなくなった。暖かい土地での療養がいいと聞き一家4人でブラジルへ。症状は治まった。

84年に在ブラジル原爆被爆者協会を設立する。海外の被爆者が援護策を受けられない実情に憤り、自費で母国と行き来し、援護実現のために奔走してきた。手書きの協会のアドレス帳を常に持ち歩く。赤ペンで

「最愛の妻」の綾子さん(83)は2月に脳出血で倒れ、意識が戻らない。残していくのは気がかりだ。でも「被爆者として一緒に闘ってきた彼女の分も頑張る」と覚悟を決めた。デジタルカメラに綾子さんの姿を何枚も収めた。これまでのようにともに世界を回ろうと。

「米国に仕返しをしたいと思いますわいですか?」。ブラジルで被爆証言をするたびに問われた。その答えを、訪問先で伝えたい。「仕返しの連続は解決にならない。戦争自体をなくするのがより大切なんだ」

文・秋山千佳 写真・徳山喜雄

被爆証言 世界に輪

ピースボート参加の被爆者帰国

非政府組織「G・O・ピースボート」の船で地球一周し、二十九年、十三番地で二千人を運ぶ入江体験を終った被爆者たちが先月月中旬、百二十日間の旅を終え帰国した。船には広島や長崎、韓国、ブラジルなどに在住の被爆者百三人が乗り込み、若者が約六百人と船上生活をともにした。被爆者の中には海外で被爆した、生まれも育ちもなく被爆した若い被爆者も多く、被爆体験を初めて話した人もいた。寄港地でも船上でも、平和活動の新しい芽生えを感じさせる交流が続いた。

被爆者を主役にした「地球一周 証言の航海」が初めて企画した。若者でも被爆者だけでなく、船内交流も盛んに行き、被爆者だけでなく、生まれも育ちもななく被爆した若い被爆者も多く、被爆体験を初めて話した人もいた。



若者と被爆者 問題意識共有
川崎哲共同代表

被爆者が主役にした「地球一周 証言の航海」が初めて企画した。若者でも被爆者だけでなく、船内交流も盛んに行き、被爆者だけでなく、生まれも育ちもななく被爆した若い被爆者も多く、被爆体験を初めて話した人もいた。



生きる罪悪感 やっと消せた
藤井美津江さん(68)

ナチスの虐殺から奇蹟的に生き残った男性とギリシャで会った。「生き残ったが申し訳ないと思う」と。そう尋ねたら「悔いはない。平和のために生きています」と論され、私の悩みの核が一掃された。川の中に黒々と並ぶ死体。死臭漂う広島を見た光景を忘れたことがない。中学卒業後、理容師の資格を得て必死で食いつないだ。でも「生きていいのかわからない」という疑念が消えることはなかった。終戦前に父が戦死。自分と兄と妹を連れ、被爆直後の広島で親類を捜し回った母は、3年後に死んだ。「両親を奪った戦争がいやだ」、世界の人に訴えるため、船に乗った。

英語で被爆証言をし海外メディアの取材にも応じた。自らの半生を語ると、どの国の人も抱きしめたい。英語を始めたのは55歳のとき。勉強したいのにできなかった青春を取り戻すためだ。

スペイン内戦の歴史やベトナムの枯れ葉剤被害…。世界には知らないことがたくさんあった。「もっと勉強して相手のことも知ってあげよう、いろんな国で被爆体験と人生を語りたい」。船旅で自分の役割を確信した。

帰宅から1週間後、英防衛省幹部から手紙が届いた。英国の平和活動家に促され、船上からブラウン英首相に出した手紙の返事だ。これまでに外国の政治家に訴えることなど、考えたこともなかった。

「英国は核廃絶を進めている。核廃絶への機運を高めたい」。通り一遍の内容だが、自分の声が届く手応えを感じた。次は核超大国の意思を調べ、オバマ大統領へ手紙を書いた。そして平和記念公園のボランティアガイドも再開するつもりだ。(広島市中区)

戦争被害継承 責任を感じた
渡辺淳子さん(66)

とにかく世界に目を向けよう。参加して一番感じたことだ。核物質による被害(ひばく)者も。南太平洋の島々の被爆者の中には、核実験をした国から支援を受けることもなく死んでいった人たちもいる。オーストラリアのウラン鉱山で働く人たちも苦しんでいる。これからは被爆体験だけでなく、戦争が何をもたらすのかについても話したい。

爆心から18%離れた久地村(広島市安佐北区)で2歳8カ月の時、「黒い雨」を浴びた。親は何も語らなかつた。25歳でブラジルに移住したが、自分が被爆者であることを知らなかつた。38歳で初めて里帰り。親から黒い雨を浴びたこと聞き、被爆者として健康診断受診者証をもらった。

証言を頼まれると葛藤(かっとう)がある。被爆当時のことを覚えていないからだ。6年前、在ブラジル原爆被爆者協会の手伝いを始め、南米被爆者の手記を見つけた。夢中で読んだ。鳥肌が立った。「こういうことだったのか」と納得した。事務所にあった被爆映像も私の証言のピースになった。物心がつく前に被爆した者は、これからどう活動したらいいか、若者にどう引き継ぐか。その責任もある。

オーストラリアやカナダ、韓国、メキシコに住む被爆者と船で知り合いになった。在外被爆者の連携はこれまでブラジル、米国、韓国が中心だった。幅広く、国際的な連携ができたと思う。(ブラジル・サンパウロ市)

「何かしたい」 思い再確認
福田晴之さん(67)

爆心地から約2.3%の牛田(広島区)で被爆。左半身をやけどした。地球一周の旅に参加したのは、説明会で「被爆者の生の声が必要だ」という話を聞き、やけどの治療の話くらいならできると思ったからだ。

戦時中時代、同じ学校の1学年下だった佐々木和子さんを懐く原爆の子の像を建設する会の役員をし、全国の学校へ報告を呼び掛けた。被爆から10年後に突然発病した彼女のことを知り、自分を含め同年代の人間は怖い思いをした。

「何かできないか」という思いはずっと持っていた。高校卒業後に神戸へ移った。まわりに被爆者はいなかった。今回、参加して被爆者同士の連帯感を感じた。具体的なアイデアはないが、これからも何か役に立ちたいと思っている。

船に乗って、日本の若者が和子さんのことを知らないことに驚いた。海外の方が知名度が高い。インドでは、「サダコ」を主人公にしたミュージカルを見た。後ろの席で見ていた8歳や10歳の子もたちがサダコさんのことをよく知っていて、「ヒバクシャ」ではなく、被爆して亡くなった「ヒバクシ」と言っていたのが印象的だった。(神戸市垂水区)

ベネズエラに 「反核」届いた
井口健さん(77)

航海の途中、代表団の一員としてベネズエラに2週間滞在。10カ所以上で証言した。「原爆を投下した米国に原爆ドームの保存費用を請求してはどうか」「米国の責任を問う厭しい質問が多かった。さすが反米の国だなと思った。」「核兵器を廃絶しないと同じ苦しみ味わう人がまた出てくる。だから今は憎しみよりも先に廃絶のために活動したい」と話すことで理解してくれた。証言の後、握手を求めてくる人もいた。「一緒にがんばりましょう」と。船の仲間と、ベネズエラでの文化交流を進めようとしていた。文部大臣の前で証言した時、以前米国の財団に広島の子どもの絵を送って交流した経験を活かしたら「ぜひ平和のためにやりましょう」と言われた。自分たちの活動が、国の大事に繋がっていかれる大きな動きにつながることを感じた。交流を通じ、核兵器廃絶への活動をサポートするような流れにしたい。平和市長会議への賛同をベネズエラの旅で集めたうちの8割以上だ。その点でも成果があった。(廿日市市)

hankore.kr | English | 日本語 | 한국어 | 繁體中文 | 簡體中文 | 粵語 | 台語 | 閩南語 | 客家語 | 潮州語 | 瓊崖話 | 莆仙話 | 閩東話 | 閩南話 | 閩北話 | 閩中話 | 閩西話 | 閩南話 | 閩北話 | 閩中話 | 閩西話 | 閩南話 | 閩北話 | 閩中話 | 閩西話

THE HANKYOREH

Voyage for peace and a nuclear free world: Arts & Entertainment: Home

1/2 페이지

THE HANKYOREH

English

Home > Arts & Entertainment

News

Arts & Entertainment

Voyage for peace and a nuclear free world

YOKOHAMA — Kwak Keol-hoon, the honorary president of the Korean Hibakusha Association, left, and Morita Takashi, of Associação das Vítimas de Bomba Atômica no Brasil, right, embrace one another before boarding the Peace Boat at Yokohama Port in Japan on September 7.

YOKOHAMA — Kwak Keol-hoon, the honorary president of the Korean Hibakusha Association, left, and Morita Takashi, of Associação das Vítimas de Bomba Atômica no Brasil, right, embrace one another before boarding the Peace Boat at Yokohama Port in Japan on September 7.

The two men are among 101 Hibakusha, survivors of the atomic bombs dropped on Hiroshima and Nagasaki, from Japan, Korea, Brazil, Canada and Australia who will travel aboard the Peace Boat to 20 countries to share their experiences, promote peace and raise awareness about the dangers of nuclear weapons.

Peace Boat is an international NGO based in Japan founded in 1983 to "promote peace and sustainability through the organization of peace voyages onboard a large passenger ship." This is its 46th voyage.

Atomic bomb victims have campaigned for compensation from the Japanese government for many years. They won a small victory on August 30 when the Japanese government awarded each victim 1.2 million yen.

Photo by Lee Jeong-yeung/The Hankyoreh.

Posted on : Sep 8, 2008 13:11 KST

© 2008 The Hankyoreh Media Company. All rights reserved. No part of this material may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise for commercial use, without the permission of the Hankyoreh Media Company.

file://C:/Documents and Settings/kawasaki/My Documents/Peaceboat63/Onboard/Media_Reports/02_... 2008/12/13

file://C:/Documents and Settings/kawasaki/My Documents/Peaceboat63/Onboard/Media_Reports/02_... 2008/12/13

LUNEDÌ 10 NOVEMBRE 2008

CRONACA DI PALERMO

LE BOMBE DEL '45. Un gruppo di giapponesi in giro per il mondo per raccontare l'orrore della guerra. «Un inferno che ci portiamo dentro»

Sopravvissuti all'atomica per un giorno a Palermo

(ris-ima) «Ero a casa, stavo guardando i miei pesci rossi quando è scoppiata la bomba e l'effluvio ha avvolto tutto. La mia sorella maggiore era al secondo piano ed è morta. Io sono riuscito a scappare con i miei genitori». Katsuma Hayashi aveva tre anni quando la sua città, Nagasaki, venne colpita dalla bomba atomica nell'agosto del 1945. «La mia memoria, i miei ricordi», racconta - cominciando quel giorno.

A 65 anni è uno dei sopravvissuti di quella tragedia. Lui, con altri 101 hibakusha, così si chiamano i sopravvissuti all'attacco nucleare (circa 250mila secondo il governo giapponese), è sbarcato ieri mattina a Palermo a bordo della «Mona Lisa», una nave partita il 7 settembre da Yokohama per fare il giro del mondo e denunciare l'orrore della guerra e delle armi nucleari.

Un arto, quello nell'unica tappa italiana del tour, segnato da un imprevisto: la «Peace boat» con cui viaggiavano si è arenata al largo della Grecia e i passeggeri sono stati trasferiti su un'altra imbarcazione. Fra loro anche tanti giovani e turisti. «La gente deve sapere che le radiazioni assorbito continuano ad avere effetti sulle nuove generazioni», spiega Hayashi - «per questo tutti i Paesi devono essere uniti contro il nucleare».

Testimonianze diverse, simili i racconti: «frequentavo le scuole superiori» dice un anziano - «e ricordo il terribile boato. Mi ha devastato, lo porterò dentro tutta la vita. La delegazione ha portato malattie, ha creato mostri». Aveva due anni ed era con la madre a casa Koyomi Tsujimoto. Ora, a 65 anni gira il mondo per testimoniare gli orrori di quei giorni. Nel pomeriggio diapositive per non dimenticare le vittime di quella catastrofe, immagini tristemente famose, mostrate in un incontro pubblico nella sala consiliare del municipio al quale hanno partecipato anche Rita Borsellino e Antonella Monasteri, consigliere del gruppo in altra storia. E poi Roberto Burgio, presidente dell'Isde (International society of doctors for environmental), Silvio Faggio, docente di Ecologia all'università, rappresentanti dell'Arci ragazzi del Cepes, il Centro studi siciliano di politica economica. A curare con loro l'iniziativa per l'Italia, Fosca Medizza. Negli scatti il fango atomico su Nagasaki il porto completamente distrutto di Hiroshima, rasa al suolo dalla bomba americana; ma anche ciò che di quella zona è rimasto dopo la seconda guerra mondiale. E ancora i feriti e i morti.

«Mole delle vittime» - raccontano i testimoni, alcuni dei quali rimasti senza gambe e finiti su una sedia a rotelle - sono stati tro-

Koyomi Tsujimoto, uno dei sopravvissuti all'atomica lanciata sulle città giapponesi [Foto L'Espresso]

Un momento dell'incontro che si è svolto col gruppo di giapponesi a Sala delle Lapide

Mel Nip Pab Das Sol Faz Aqu

soitu.es actualidad

Zarpa de Japón el Barco de la Paz, que pasará por Las Palmas de Gran Canaria

Actualizado 07-09-2008 18:47 CET

Yokohama (Japón). - Cien veteranos supervivientes de las bombas atómicas de Hiroshima y Nagasaki, llamados "hibakusha" en japonés, iniciaron hoy la vuelta al mundo para divulgar su mensaje contra las armas nucleares en el Barco de la Paz, que en España hará escalas en Barcelona y Las Palmas de Gran Canaria.

Este barco, una organización no gubernamental (ONG) japonesa, celebró su 25 aniversario con su 63 viaje por la paz alrededor del mundo junto a estos invitados especiales y otros 600 tripulantes y viajeros, que visitarán 24 ciudades hasta regresar a Japón el 18 de diciembre.

El barco de la ONG japonesa zarpó hoy del puerto de Yokohama (sur de Tokio) a las 17.00 hora local (8:00 GMT) rumbo a Da Nang (Vietnam), donde hará su primera parada antes de visitar en España Barcelona y Las Palmas de Gran Canaria, además de Venezuela, República Dominicana, Panamá, Perú y Chile, entre otros países.

Por ello, Yoshioka y el equipo del Barco de la Paz invitaron a cien "hibakusha" (víctimas de la bomba en japonés) a acompañarles durante su travesía, con lo que nació el proyecto "Barco de la Paz de los Hibakusha".

En un principio, unas 120 víctimas se interesaron por este viaje aunque finalmente la cifra se redujo a 101 puesto que los médicos no consideraron conveniente que una veintena de ancianos viajara durante los tres meses que durará el viaje.

No obstante, Katsuyoshi Omori desobedeció los consejos de su médico y decidió subir al barco para "transmitir el horror de la guerra" a las generaciones más jóvenes.

"Lo veía como mi última oportunidad, pero mi hijo me dijo que era el principio", indicó Omori tras relatar que, después de tocar el plano durante cuarenta años, tuvo que abandonar por los efectos de la radiación que le provocó la bomba atómica lanzada por Estados Unidos el 6 de agosto de 1945 sobre Hiroshima.

Tres días después, el 6 de agosto de ese mismo año, pero en Nagasaki, Kikyo Nakamura sobrevivió a la bomba atómica de EEUU, por lo que 63 años después esta anciana se siente con fuerzas para ir en el Barco de la Paz y soñar con "un país pacífico, que tenemos que construir entre todos".

Uno de los "hibakusha" más jóvenes es Isha Yoshida, de 68 años, que entonces tenía solo cuatro años.

Yoshida asegura que recuerda ese día, aunque durante 46 años no se atrevió a contar que era una víctima de la bomba en Nagasaki hasta que, en el cincuenta aniversario de la bomba "decidió empezar a actuar". El anciano ahora explica como guía la historia de su ciudad a los jóvenes visitantes.

Las bombas de Hiroshima y Nagasaki causaron más de 120.000 víctimas mortales instantáneas y más de 400.000 en los meses y años posteriores por las secuelas causadas por las radiaciones.

Hay en día hoy más de 270.000 supervivientes o "hibakusha" que aún sufren consecuencias de la radiación química, algo que durante años se pensó que podía ser controlado, por lo que sufrieron discriminación social.

Las experiencias de más 101 supervivientes serán recogidas y documentadas por voluntarios del Barco de la Paz, que aprovechará las paradas para reunirse con los mandatos de cada país y recoger su firma para la declaración del "Proyecto Hibakusha".

"Este es realmente un momento histórico porque las víctimas han decidido dar la vuelta al mundo y, como testimonio, van a mostrar su experiencia", indicó iluminado Tatsuya Yoshioka.

El director de la ONG apuntó que en cada país deberán adaptar su mensaje, como en la India, "que es uno de los puntos calientes" del viaje, pues no ha firmado el Tratado de No Proliferación Nuclear.

"Además visitaremos España y he oído que el presidente (José Luis Rodríguez Zapatero) está muy preocupado por contribuir a la paz mundial y por abolir las armas nucleares como ningún otro país en Europa", añadió.

TEMAS RELACIONADOS

Selección de temas realizada automáticamente por

En soitu.es

- Barco de la paz de la vuelta al mundo contra las armas nucleares
- Hiroshima recuerda el 63 aniversario de la bomba atómica centrada en las víctimas
- Ver todos los temas relacionados en soitu.es



支援金のお願い

「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」プロジェクトの継続のために、支援金をお願いしています

郵便振替口座：00180-3-177458

加入者名：ピースボート

通信欄に「ヒバクシャ」と明記してください

ゆうちょ銀行 ゼロイチキュー店（019店）

口座番号：当座 0177458 ピースボート

振込依頼人の前に「ヒバクシャ」と明記してください

ピースボート

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1 TEL 03(3363)7561 FAX 03(3363)7562

www.peaceboat.org ameblo.jp/hibakushaglobal